

整形外科シリーズ 9



骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

関節リウマチ



「運動器の10年」世界運動



企画・制作
社団法人日本整形外科学会



骨と関節をイメージした
整形外科アピールマーク

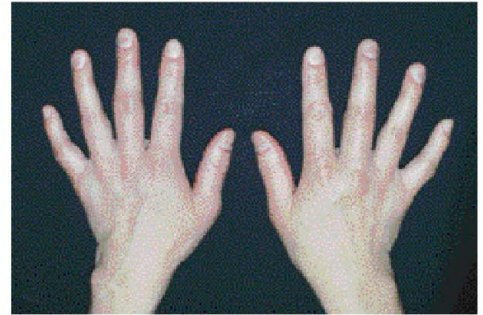
かん せつ 関節リウマチ



● 症状 ●

最初は両方の手や足の指の関節が対称的に腫れて、とくに朝、こわばるようになります。また、人によっては膝関節や股関節など大きな関節にも病変が進み、水が溜まり、動きにくくなり、痛みのために日常生活に困難をおぼえるようになります。どの年代でもおこりますが、特に30~40歳代の女性に多く発症します。軽症の人いれば重症の人もいて症状も多彩です。早めの診断・治療が必要です。

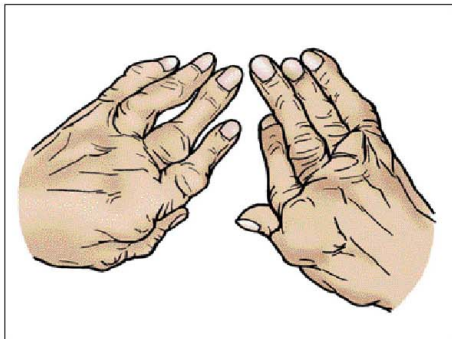
関節リウマチは、関節だけの病気ではなく全身病ですので、貧血症状がでたり、体がだるくなったり、微熱がでることもあり、こうなると症状が悪化します。



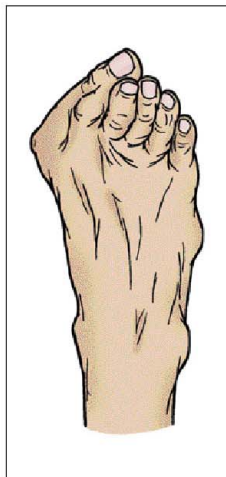
[全身の関節に進行していく病型の患者さんの場合]

指や手首の関節が破壊され、指が短くなったり、関節が脱臼して強く変形することがあります。足のゆびにも変形がおこります。

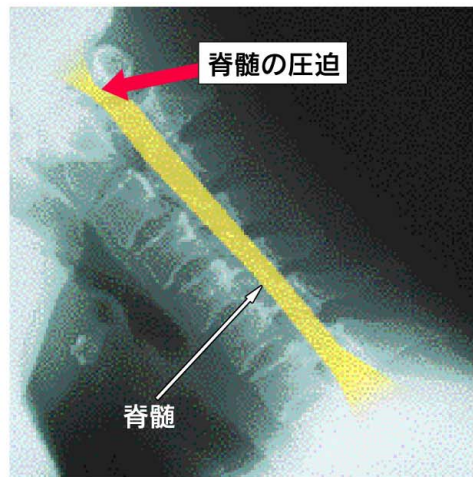
一番こわいのは、首の一番上の部分で背骨が前にずれてしまい、脊髄が圧迫され、手足が麻痺したり、呼吸がしにくくなる場合があることです。



関節リウマチの手の変形



関節リウマチの足の変形



● 原因・病態 ●

遺伝的要因や細菌・ウイルスの感染などが考えられていますが原因はまだよくわかっていません。関節リウマチの病態は、自己免疫疾患と考えられています。自分の身体の一部を自分のものではないとして、これに対する抗体をつくって反応をおこしてしまい、このために関節液をつくる滑膜という組織にリンパ系細胞が集まって反応がおこります。そして、滑膜はさまざまな破壊物質の産生工場となって、しだいに自分の軟骨や骨を破壊していきます。重症の場合には、関節は固まったり、逆にゆるんで大きく変形したりします。そして最終的に関節が破壊されつくすと、変形を残して炎症はおさまります。

